

## 令和5年度第1回秩父市総合教育会議 議事録

期 日	令和5年6月16日（金曜日）
時間・場所	15時～16時30分・秩父市役所本庁舎4階 第1・2委員会室
出席者	<p>北堀市長、前野教育長、松本教育委員、山中教育委員、大島教育委員、浅海教育委員</p> <p>総合政策部長、総合政策部専門員兼総合政策課長、総合政策課主査教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長、教育研究所長、教育総務課長</p> <p>傍聴者 1名</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <p>○教育長挨拶</p> <p>○議事</p> <p><b>(1) 子どものスポーツを取り巻く環境について</b></p> <p><u>資料1について教育委員会事務局 飛川教育研究所長より説明</u></p> <p>(松本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代は外遊びが減って室内遊びが増えているが、生活様式が多様化している中で、やみくもに外遊びをしろと言っても無理である。</li> <li>・我々が子どもの時は、子どもたちは自由に遊べたが、今の子どもたちはルールのあるような遊びしか経験しておらず、自由に遊べといても遊べない。ルールを教えたとその中で遊び、親もマニュアル化してある遊びしかできない。</li> <li>・スポーツを習うには送迎を含めた環境が整っている必要もある。例えば、土日に野球をしている子どもは、遠いところでの遠征試合があったり、兄弟の部活の送迎もあると、送迎が難しくなることもある。親や祖父母に送迎してもらえない子どもは恵まれていると思うが、それをできない子どもたちも多い。</li> <li>・国では部活廃止論や外部指導者の論争をしているが、吉田地区では実現することは難しいであろう。吉田地区では、一日の時間は短くてもいいので学校の部活動で行ったほうが、生徒がスポーツや文化的なことに触れられると思う。</li> <li>・市内でも、秩父（旧市内）、吉田、荒川など、地域ごとに状況は違うので、一緒にはできない。地域ごとに良い方法を考えてやっていくのが良いと思う。</li> <li>・子どもたちのスポーツを取り巻く環境は悪いと思う。スポーツというと、どうしても甲子園、インターハイ、全国大会を思い浮かべるが、本来は、身近な人が集まって行うことで生涯スポーツにつながる。</li> <li>・場所や指導者だけに限らず、子どものスポーツをバックアップする家庭の努力が必要である。</li> </ul> <p>(山中委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は剣道やバスケット等、地域の方たちが放課後に子どもたちを指導</li> </ul>

する場所が少ないながらあった。一方、今の子どもたちは、選べるスポーツや通える場所が増えていると感じている。

- ・部活動に関しても、昔は部活動を通して協調性、団結力、体力を培うという、学校教育の一環としての要素が大きかった。そのことを子どもも納得していたし、親も認めていた。一方、今はスポーツの種類が多く、スポーツクラブも増えたこともあり、保護者・子どもたちの求めているものが「もっと強くなりたい」、「強い学校に行きたい」など、昔よりもよりスポーツ的な、より高いものとなった。
- ・強くなりたいという子どもたちが増えていること自体は進化ともいえるのだが、送迎の可否や経済的な理由により、スポーツクラブに通える子と通えない子に分かれてしまっている現状がある。
- ・小さい頃からスポーツに取り組んでいる子と、やりたいけれど様々な理由でできず、中学の部活動から始めた子ではスタートラインで差がついてしまっている。そうなると、中学校から始めた子はやる気を失ってしまったり、その部活動では活躍できなそうなので最初から文化部に入る、といった選択をすることも聞く。
- ・スポーツをできる子をさらに伸ばすことも大切であるが、恵まれた環境にない子にとってのスポーツについても考えていく必要がある。

(大島委員)

- ・直観的に、街場ではスポーツをやりやすい環境と思う。幼稚園でのスポーツクラブ（サッカー等）を小学校でも継続する例も多い。野球やソフトボールはスペースが必要なため、種目としてはサッカーが伸びているのかなと思う。
- ・部活動の問題点を知り合いの母親達に聞いたところ、お金がかかることが挙げられた。例えば、中学校のバスケット部に入るとユニホームが2万円以上かかり補助もない。先輩達も思い出があるのでユニホームを後輩に渡さないため、リユースができない。また、シューズも高く家庭の負担になっている。
- ・私は中高と柔道部だったが、柔道着は一着1万円せず長く使えるし、先輩が残していった柔道着を利用することもあったため、柔道に関してはお金がかかる感覚はなかった。
- ・私は30年間、地域の子どもたちに格闘技を教えており、生徒は30人程度いる。月謝が安いこともあり近隣（原谷）の子が集まるが、秩父高校を会場として実施すると花の木小学校の児童が集まる。このことは、やはり親の送迎負担の問題を表していると思う。
- ・秩父からは陸上競技では有名な青葉さんが出たり、柔道剣道も有名な先輩を輩出している。こういった競技ができなくなるのは残念であるので、地域が連携して団体スポーツができれば良い。
- ・学校の先生が、専門性がない部活動の顧問になり、後からそのスポーツができる先生が来ても、顧問にならないことがあると聞く。
- ・スポーツの指導としては、学校の先生方が全てできるわけではないので、何とか優秀なスポーツ選手の方の指導を受けられるようにしたいと考えている。

(浅海委員)

- ・部活動の大原則は、資料1にもあるように「自主的、自発的な参加により行われる部活動」であるが、これは先生や生徒も意識できていない。この趣旨から言うと、本来先生が出席を強要したり、レギュラーとすることの条件として出席状況を入れてはいけない。
- ・一方で、資料1の前述の後の部分である「スポーツや文化、科学等に親しませ、～学校教育が目指す資質・能力の育成に関すること」の部分については、やはり顧問、指導が必要と思う。
- ・勝利至上主義ではなく、楽しませることが重要であり、スポーツから連帯感や責任感を学ばせることを大前提とした部活動を考えていかなければならない。
- ・先生方にとって、未経験種目の部活動が負担になり、これが教員になりたくない原因にもなっていると聞くので、部活動は本来自主的、自発的な参加であることを先生方全員が意識し、学校教育に取り組む必要があると考える。
- ・外部指導者にも学校教育の一環としての「指導」という意味をわかってもらえないと、勝利至上主義に走ってしまい、学校教育の一環の部活動ではなくなってしまう。
- ・月謝を払って習い事（スポーツ）が成立するのは素晴らしい。例えば秩父市にはスイミング施設が以前からあり、月謝を払う習い事として成立している。これは、子どもたちの体力向上に水泳が良いという認識のもとに、成立している。
- ・例えば、スポーツ少年団をボランティアではなく、しっかり指導者には補助を出してあげて、スポーツ少年団が地域の子どもたちを受け入れて長く続くような形にできれば、お金を払いつつ楽しく活動できるという、部活動とは違う側面も持たせられるのではないかと。
- ・学校外のスポーツ施設や外部指導者と部活動をどうリンクさせていくのか難しい側面もあるが、スポーツが子どもたちに及ぼす影響はかなり大きいので、現状の取組を続けていきつつ市の補助を考えてもらいたい。

(教育長)

- ・松本委員から出た、外遊びが減っている件について、あるアンケートによると86%の母親が、最近外遊びが減っていると回答しているようだ。確かに子どもが近所で遊ぶ光景が減っている。遊びの中で体力や社会性などを身に付けることもあると思う。
- ・部活動については、教員の減少により、顧問が複数で対応できなくなったり子どもが少なくなり廃部を考えなければならぬところもあり、各学校も大きな課題として取り組んでいる。
- ・そのような中で、資料にある通り4人に3人が運動部に所属しているということで、まだたくさん部活動が活動している。これらはほぼ学校で活動できており、学校教育の目指す資質育成が図られていると思う。これが持続可能な状況が良いが、最近大変な状況になってい

る。

- ・土日に月謝を払って個人的にやっている活動や、部活動に入らないで地域のスポーツクラブに所属している生徒もそれなりの人数いる。学校ではできない、送迎等家族の協力を得ないとできない、ということもあるだろう。
- ・市内でも、海外遠征や全国大会に出場する子の話を聞くが、これらは部活動ではなくクラブでやっており、家族の協力があったこと。また、スキーやゴルフ、体操、新体操、水泳など、部活動としてはない種目で大会に出る生徒も相当数いる。
- ・いずれにしても、子どもたちのスポーツを取り巻く環境は、子どもだけでは難しく、親の協力なくてはできない。身近なところでできれば一番だができない環境もある。
- ・オリンピック等で日本人選手が活躍すると、それにあこがれてスポーツ活動が行われるようになることもあると思う。ある企業が調査した結果、小学生に人気のスポーツベスト10は、バドミントン、水泳、ダンス、卓球、テニス、バスケ、バレー、陸上、サッカー、スキーの順となっている。また、中学生では、水泳、サッカー、体操、ダンス、空手、野球、バスケ、テニス、スノボ、陸上という順で、多岐にわたっているという印象がある。秩父地域でこういった種目が全てできるわけではないが、やりたい子ができる環境づくりを行政としても取り組んでいく必要があると思う。

(市長)

- ・子どもたちを取り巻く環境は時代とともに変化している。スポーツにおいては昔に比べて競技種目が非常に多くなった。またパソコンやゲーム等がある中で家庭環境も変わった。
- ・専門的なスポーツについては親の送迎が必要であり、なかなか難しいと感じる。子どものスポーツに一生懸命な家庭もあるが、子どもたちはやりたがっているものの事情があって送迎できないため、スポーツが行えない家庭もある。
- ・障がい者の方たちは、健常者でもできないような高度な競技をパラリンピックでやっている。障害のある人たちが一生懸命練習し選手となって活躍している姿を見せれば、健常者にとっても、一生懸命頑張っ、自分の目標を定めて何かに取り組むという「生きる力」を育むことにつながるのではないか。
- ・以前、東京オリンピック・パラリンピックの会長をやられていた橋本聖子先生に、オリンピックの前にパラリンピックを開催してほしいとお願いしたことがあるが、パラリンピックの選手の方たちに秩父に来てもらい、競技を見せてもらうのも良いと考えていた。
- ・一流の選手を見ることで、子どもたちの潜在能力を引き出すこともあるだろう。
- ・皆野高校出身のやり投げ選手である新井亮平さんは、高校の先生からやり投げを勧められて始めたところ、能力が開花したという。小さいうちから能力を発揮する方もいるし、後から開花する場合もある。子

どもの能力を見極められる指導者がいるかが、大きなカギである。子どもたちには無限の可能性があるが、隠れた能力に気づかない場合もある。

- ・行政も子どもたちが自分の目標が見つけれられるチャンスが得られるような環境を整えていきたい。
- ・秩父市は良い施設がないため大きな大会を誘致できず、子どもたちの目の前で競技を見せる環境があまりなかったと思う。
- ・例えば、小鹿野町、皆野町には野球場がある。今となっては野球の競技人口が少ないということもあるかもしれないが、施設環境を整備することも必要と思う。
- ・先ほどもあったように、サッカーの人口が多いということもあるが、今年度、サッカー場に人工芝のグラウンドを作る予定である。
- ・別所運動公園、影森グラウンドについては特にトイレが汚いので、改修を考えている。こういった面も含めてスポーツを取り巻くすべての環境が整えられるといいな、と思う。
- ・あらゆることを自分なりに考えて、子どもたちの環境、生涯スポーツも含めて努めていきたい。子どもたちによりよい環境を与えられるよう考えていくので、皆さんもいろいろなところでお力添えいただければと思う。

## (2) 心の教育について

資料2について教育委員会事務局 飛川教育研究所長より説明

(浅海委員)

- ・心というのが何なのか、というところだが、資料2の3段落目、「困難や失敗を乗り越える」や、2段落目の「豊かな人間性」というところが「心」とリンクするのではないか。
- ・最終段落の教育基本法にも家庭教育とあるように、学校だけでなく家庭の影響も大きいのではないか。
- ・失敗を許す寛容さ、失敗を許し、失敗から学ばせる親の時間的余裕等が特に家庭では重要になってくるのではないか。

(大島委員)

- ・心の教育は非常に難しい課題。子どもを3人育てているが、自分も困難を回避することも多く、心の教育ができていないかはわからない。
- ・浅海委員が「失敗を許す」とおっしゃっていてぐっときた。失敗してもくじけず前へ進め、ということは子どもたちにとってもプレッシャーになると思うし、強い気持ちを育てるということは難しいことだと思う。
- ・一つ言えるのは、大人になったとき、必ずチームの一員として活動していく必要がある。チームとして、相手を思いやって、相手を尊重して進んでいく。それが強い心ではないかと思う。一方、心が弱い人が犯罪には走ってしまったりする。

- ・まずは子どもたちが自己肯定感をしっかり持って、自分に自信を持って、自分も大切な人間なんだという自尊心を持ち、学校の先生や親も、子どもを一人の人間として愛して成長を温かく見守ることが重要と思う。

(山中委員)

- ・心は目に見えないので、なかなか経過が見えず、答えがないものだが、私も子どもを育てるには学校、地域、中でも家庭が大きいと思っている。
- ・子どもを育てるのは大変な時代になってきており、子どもたちが素直に健全に育っていくためには親だけでは難しい。今の親は共働きで忙しいため、学童など、親が帰ってくる間預かってくれる地域の人の存在はとても大きい。
- ・地域の力や学校の力など、1人の子どもをたくさんの大人が見守ってくれるような地域環境、例えば子どもがふらっとよれるような図書館や子ども食堂など、地域の中での居場所があればいいと思う。
- ・そこで子どもたちが大きくなって行って、挫折したときに、大きくなった子どもを受け入れる地域・人・場所があれば、困難を乗り越えられる人になれるのではないか。家庭も大事だが、それを取り巻く地域環境も大事と思う。

(松本委員)

- ・心の教育は難しい問題。心とは漠然としたもので、形とか数値で表せない。調べてみたところ、心理学者は心という言葉を使わず、反応という言葉を使うとのことだ。反応とは、思考、行動、感情のことを指しこれは測定が可能。
- ・私もよく強い心、弱い心、優しい心など、心という言葉をよく使っているが、道徳の中ではA B C D (A自分自身に関すること B人とのかわりに関すること C集団や社会に関すること D命や自然に関すること) の4項目に分かれている。
- ・それぞれの内容はその通りだと誰もが納得することだが、でもなぜかできない。人間は、思ったことをそのままできない。
- ・家庭の教育力低下に関する東京都の調査によると、61.5%の方が「親自身に正しいルール・マナーが身につけていない」と回答、「責任感や心構えができていない」との回答も47%あった。また、「自分の仕事や自らの生活を重視するあまり家庭教育やしつけがおろかになっている」と回答した人も32%となっている。多くの人が、そう思っているということ。でも、心が弱かったりするのでできないのだな、と思った。
- ・親がこれほどできないなら、学校でやらざるを得ない。数学や英語などは形に出るが、学校では道徳教育を何年か前から評価するようになった。これは位置づけをちゃんとしなさいということだと思う。
- ・道徳も変わっていかねばいけないと思う。昔のように偉人の話を読んで感想を持つ、それだけでは心が育たないと思う。子どもたちに

本音での議論・話し合いをさせろ、と言っている本もある。特に中学生になると、顔色を窺って本音を言わなくなってしまう。大人になるともっと言わない。本音が言えなくなってくる。それは心がダメなんだと思う。だから、せめて小中学校では教科書を読むだけでなく、心の教育を進めてほしい。

- ・これからはもっとグローバルな社会になる。朝ドラマで明治時代の鹿鳴館の話があった。ダンスをする理由を、当時の日本人が「欧米に追いぬくためにやる」といったところ、ダンスを教える外国人講師は「私はそんなつもりで教えているのではない」と答えているシーンがあった。この、明治時代のような考えではダメだ。経済成長のみを重視するのではなく、豊かになるには、豊かな心がないといけない。
- ・ブータンの人は豊かな気持ちでいるので、生活が不便でも豊かな気持ちでいる。現代の日本人は楽なことを覚えすぎたのではないかと思う。
- ・今の小中学校の外国人による外国語教育を通じて普段から英語に触れており、昔の人とは違う。捨てたものではない。機械も発展していることもあり、細かい会話ができなくても、気持ちがつながっていればいいのでは。そうしないと、多種多様な文化を持った人たちと会う機会がなくなってしまう。お互いを認め合う気持ち、感情が必要。子どもたちには、相手を認められる人になって欲しいと思う。

(教育長)

- ・心の教育について、子どもたちが逆境にも負けない強い心という視点で考えてみた。学校でも家庭でも、特に家庭では低年齢のところから、そういう芽生えがでてくる。
- ・いろんなことに挑戦させることが必要。目標を持ってやり通したという経験が大きな自信になってくる。研究者の中にはほとんどが失敗で、まれに成功するぐらいだという人もいるが、たくさん失敗して、そこから学ぶことが多いんだと思う。失敗を先回りして答えを教えたり、やってあげるなど、手をかけすぎてしまうのは良くない。やらせてみるということが必要。
- ・少し長い距離を走らせるとか、本を一冊読み終わるとか、ものを作るとか、生き物を世話をする、野菜の栽培収穫をするなど、目標をしっかり持って取り組ませることが重要。
- ・係や部活動など、分担されたものを責任もってやり通す、自分で決めたものをして認められることで自信につながっていくことが1日の中でもたくさんあるだろうし、1年であれば数えきれないほどある。そういう経験を積む中でそのような力がついてくると思う。
- ・自己肯定感を高める、自分は大切にされているな、という気持ちだったり、困ったときにはSOSが出せる子どもの育成、困ったときにどうSOSが出せるかコミュニケーション力も必要になってくる。
- ・苦しいけど何とかかなると思えたり、本当に苦しかったらこれ以上できないということをアピールして、そこを親や先生が手伝うといったことを通して、1つのことをやり遂げることを狙いにして指導していったらよいのではないかと思う。

- ・失敗をしたら、頭ごなしに叱るのではなく、なんでできなかったのかを振り返らせることが必要。小さいときから家族の一員としての役割を担って手伝いをしたら褒めてやる、できた達成感や自信をつけるようなことを日々の中でやっていくことが必要。
- ・失敗しても立ち直りが早い子どもや、努力も楽しみながら、自分に挑戦しながらやり通せる子どもが育てばよい。
- ・家庭教育だけでは難しいと思うので足りない部分は学校教育で担わざるを得ないと思う。親の接し方や親子の信頼関係が根底にあって子どもたちが成長していくと思う。強い心を持って、何事にも挑戦しあきらめられない、そんな子が育てばいいなと思う。

(市長)

- ・子どもは生まれたときは、真っ白な気持ちで生まれてくる。昔から、三つ子の魂百までという言葉があるが、やはり両親の影響が大きい。
- ・その後はだんだん自我が芽生えてくる。自我が芽生えているときに、どうやって親や地域社会や環境がいい方向にももの分別を教えていくか。そして一番根底にあるのは家庭、親。自我が芽生える前から分別を教えて導いてあげることが重要。
- ・失敗したときのフォローをどうするか。人としての寛容さや厳しさをどうやって教えていくか目標を定めて人生設計していくことが大切。
- ・優しさがよいのか、優しさだけでは生きていけないし、逆に自分自身への厳しさ、相手に対する尊敬の念も持ち合わせていなければいけない。難しい。心の教育は永遠のテーマ。
- ・今後の時代は子どもはどう成長していくのか、難しい時代だ。ITが進むほど人間は楽になってくる。果たして楽なのが良いことなのか。自分に対する厳しさがなくなってくるだろう。1日の中で、自分がどういう時間の過ごし方をしているのかが重要。
- ・人間は一人では生きていけない。相手から支えてもらって生きている。人生に失敗したとき、どうやって周りや家族がフォローしてあげるのか。私も失敗があったが、立ち直れたのは周りの励ましがあったからである。ここで負けたら自分が終わりだと思って頑張らないといけないと思えた。周りの友人によっても人間性が左右される。
- ・心の教育は一つの答えで割り出せない永遠のテーマである。次の世代を担う子どもたちや周りの人たちに、大人だからこそその心のメッセージを発していただきたい。

○閉会

以上